

キャンヘルプタイランド

ネットワーク通信

2018年8月20日発行 第82号

事務局便り

8月20日から27日まで、愛知大学の学生26名、教員1名、職員1名と私の計29名でタイボランティアツアーに行ってきました。タイ中部ピサヌローク県、北部チェンマイ県、バンコクを1週間で駆け抜けるハードなツアーでしたが、久しぶりに大人数のツアーを引率でき、20年前にキャンヘルプタイランドがおこなっていた大型ワークキャンプを思い出し懐かしく感じました。

今回は、愛知大学主催の学生向けボランティアツアーということもあり、愛知大学の提携校でもあるナレスワン大学（ピサヌローク県）の日本語を勉強している学生との交流プログラムがあったり、チェンマイでは、現地の小学校や高校などを訪問したりと、文化交流中心のボランティアツアーとなりました。

キャンヘルプタイランドは、愛知大学の依頼を受けツアー中のチェンマイ滞在部分をコーディネートさせていただきました。大学生は「カサロンの家」に4泊し、寮の子ども達と一緒に遊んだり、子ども達が通っているポリラック小学校やドイサケットウィッタヤー学校（中高校）を訪問したり、ドイステープ寺院やメーサーエレファントキャンプなどの観光も織り交ぜた中身の濃いチェンマイ滞在をコーディネートすることができました。

1日目：早朝バンコク着 午前スコータイ観光 午後ピサヌローク県ナレスワン大学との交流会

2日目：お昼の列車でピサヌロークからチェンマイへ移動（約6時間）夜8時「カサロンの家」着

3日目：午前中は「カサロンの家」でゆっくりして、午後はポリラック小学校でちぎり絵交流

4日目：朝からドイサケットウィッタヤー学校へ 日本語クラスの中高生と交流

5日目：チェンマイのドイステープ寺院と象キャンプ 夕食は子ども達も交えてパーティー

6日目：午前中は「カサロンの家」の子ども達と交流 午後の飛行機でバンコクへ

7日目：学生達は1日自由にバンコク市内を観光

8日目：朝10時のタイ航空でセントレアへ 夕方6時セントレア着

今回のタイツアーは、大学主催のボランティアツアーとしては画期的な企画でした。初めての試みなので、いろいろと探り探りの部分もありましたが、キャンヘルプタイランドとしてこのツアーに大きく貢献でき、なおかつ大きな事故や事件もなく29名全員無事に帰国することが出来た事は、とても良かったです。

年2百万円以下の予算で運営されている「カサロンの家」は、そのほとんどを不安定な寄付金収入に頼っています。「カサロンの家」がスタートした2005年から約10年間は、毎年赤字で運営されていました。この状況を改善するため、キャンヘルプタイランドでは、運営予算の大部分を占める子ども達の食費に注目し、食糧自給を目指した家畜小屋建設や農園の整備を行ってきました。養鶏や養豚も開始後数年で軌道に乗り、野菜畑や稲作など人手の要る作業では、寮の子ども達も大きな戦力となっています。今年3月には新たに牛小屋を建設し、現在は子牛2頭を含む計4頭の牛を飼育しています。そして、今回の愛知大学ツアーでは、滞在費として「カサロンの家」へ10万バーツ（約34万円）の支援ができました。また、愛知大学様からは、今回の様なツアーを例年行事にする提案も頂きました。このツアーによって寮の年予算の2割近くを安定的に日本から支援できる事になれば、「カサロンの家」の運営は大幅に改善され、子ども達もより良い環境で生活できる様になるはずです。

坂 茂樹

報告 1

～2018 年度奨学金授与式報告～

寺島 優美

6月26日から29日まで毎年恒例となっている奨学金授与式に行きまして。

初日にコンケンに到着したときはスコールのような大雨が降り響いていて少し怖いくらいでした。ドライバーさんに尋ねると雨期の初期なので雨がとても多くてバンコクではしょっちゅう洪水になるけれどここら辺ではあまり洪水にならないと言っていました。4日間でマハサラカムからナコンパノムまで教育委員会のワゴン車で移動させていただきましたが、辺りはいつも自然が多く田んぼや畑が広大に広がっていてまだまだこれだけの自然が残っているんだなあ、沢山降った雨も都会の舗装してある土地と違って土が吸収してくれるので洪水にもなりにくいんだなあと感じました。1日目のマハサラカムとカラシンの授与式を迎えた朝に現地のニュースでタイ北部のタムルアン洞窟でコーチを含めて13人のサッカーチームの少年たちの行方が分からなくなっていると報道がテレビで流れていて、関係者や現地の方々皆で集まりお祈りを捧げる中、懸命な捜索活動がされていました。大雨で浸水していることと全長が数キロもある長い洞窟ということで捜索が難しいため世界各地からダイバーなど救助技術の提供がなされていて傍らで涙を流しながら真剣にお祈りを捧げるご家族が映し出されると、ただただ無事に発見されることを祈るばかりでした。

マハサラカムへ到着する直前まで今回同行して下さったムさんの携帯には子供たちや先生からのメールや電話が続きました。今年から申請書類が一部コンピューター入力となったため便利になった反面やり方がいまいち分からず助けを求めてきているようでした。このやり取りが前日～当日に一番のピークを迎えるところがのんびりしていて楽観的でタイらしいなと思いました。授与式のスピーチでは日本語の「ありがとう」の意味と「行いや想い」は縁を通じて自身に巡ってかえってくること、また、キャンヘルプタイランドの活動に賛同して下さっているドナーの方々のエネルギーが未来を拓くパワーになりますようにとの内容をお伝えしました。日本語の「ありがとう」の意味なのですが、漢字では「有難い」と書き「有る（在る）」ことが「難しい」という意味が込められていると聞いています。これはプミポン国王の「足るを知る」という思想に少し似ているなと思っています、とお伝えしました。「現在（いま）、ここに有る（在る）」ことに感謝をする」という意味に捉えられたからなのですが、「いまここ」のために様々なひとや物事が陰で働きかけてくれている「お陰様で」という意味が込められた貴重なものなのだとお伝えしました。奨学金制度は陰ながら子供たちの成長や学びを応援して下さっているドナーの皆様の善意で成り立っていて、このご縁とエネルギーを生かせるように小さな親切や勉強から始めて前向きなエネルギーにしていってほしいとお伝えしました。

このような内容のスピーチをさせて頂いてからは、帰り際に学生の子供達や親御さんたちから口々に「アリガトウ」と言って頂きました。私たちと現地の方々ですと日本語とタイ語で言葉が異なるので、スピーチは片言の英語でお伝えしむさんにタイ語で通訳して頂いたのですが、ほんの一言や一単語で心が通じたように感じる言葉の持つ力ってすごいなあと思いました。

カラシンでは会場に到着すると奨学生達がずらっと揃っていて授与式の出席率 100%でした。私が以前授与式に参加させていただいたのは5～6年前なのですが、子供達の成長は早いもので小学生だった子も今は立派な高校生な訳でお兄さんお姉さんになっていました。

家庭訪問ではサティッポン・カムシラ君とタンチャノ・カンピーソーちゃんのお家の2件訪問さ

せていただきました。

サティッポン・カムシラ君は中学1年生（13歳）の男の子で祖父と祖母の3人暮らし、両親は離婚し母親は育児を放棄して出て行ってしまったそうです。父親は出稼ぎにバンコクで働いていますが、仕送りがあるのは時々だそうです。祖父は体調を崩して重いものなどを持つことができず、認知症なのか日中ぼーっとしていることが多くなったそうです。働き手が無い為近所の田んぼは親せきに手入れをしてもらっていて、祖母は草から育てた素材でゴザを織っていました。収入35000B/年に対して10年ローンで150000Bの借金があります。サティッポン君は学校から帰ると家の掃除や皿洗いなどの家事の手伝いをして週末は友達とフットサルに出掛けたり読書をする日常を過ごしていて、将来はエンジニアになりたいと言っていました。母親代わりのおばあさんにどんな子が尋ねると普段は大人しいけれど頑として聞かない頑固なところもある（笑）。けれど、息子よりも大切な宝物だとおっしゃっていました。帰り際には床に敷いてあったとても良くできているお手製のゴザをくるくると丸めて息子のことをどうぞよろしくお願いしますと丁寧に土産として手渡してくれました。



※サティッポン君の自宅内にて

（左から3番目：サティッポン君と両親が祖父母、左から4番目：タンチャノちゃん、中央：頂いたゴザと寺島、一番左と右から2～3番目：先生、一番右：むさん）

タンチャノ・カンピーソーちゃんは中学3年生（15歳）の女の子で祖父と祖母、両親と6歳の妹と6人暮らしですが妹は血液の病気を患っておりあまり容体が良くないためタンチャノちゃんの実質おばあさんと暮らしているそうです。牛、鶏、犬、小鳥を飼っていて昨日子牛が生まれたばかりでした。月収3000Bに対して親牛は一頭75000Bもするいい牛で大投資だったようですが毎年子牛を産んでくれて助かっていると言っていました。タンチャノちゃんはタイの楽器の演奏が特技で様々なコンクールで賞をもらうこともあるそうです。来年はタイの楽器の演奏で有名な高校に推薦入学できるのではないかとのことでした。小柄で細身、いつもニコニコしていて嬉しそうに動物を紹介してくれる可愛らしい女の子でした。近所の子供たちが家の水がめの水を汲みに来るような開かれた朗らかな家庭でした。ちなみにサティッポン君もタイの楽器を演奏するのが得意でタンチャノちゃんと同じ学校のため一緒にチームで演奏することもあるそうです。



※授与式にて(タンチャノちゃんがお礼にタイの楽器を演奏)

※タンチャノちゃん自宅前にて(左から3番目:タンチャノちゃん)



ロイエットではピーラパイ・カンピット君・中学校3年生(14歳)の自宅を家庭訪問させて頂きました。母と17歳の姉、祖母との4人暮らしで収入は月に6000B程度、母がミシンで帽子な

どを作成して賄っています。また、おばあさんがゴザやまくらなどを時間のある時に作成して売り物用に保管してあります。ピーラパイ君は成績優秀で素晴らしい子だと先生やお母さんも皆が褒めていました。お母さんはこの子は全然変なことをしなくて、いつも穏やかで家の手伝いもよくしてくれる。こんないい子が息子だということが誇らしいとおっしゃっていました。フットサルも得意だそうです。週末も友達と遊びに行くよりは家の手伝いをしていることが多いそうです。かなり成績優秀なので推薦入学で高校に進学できる可能性が高いと先生がおっしゃっていました。ピーラパイ君は将来、車関係の仕事に就きたいと言っていました。むさんがおばあさんの作ったゴザを一つ購入したのですが、車まで運ぶときも何気なくゴザを持って運んでくれるなど気配りのできる心優しい子でした。

※ピーラパイ君の自宅前にて(左から3番目:ピーラパイ君、一番右:お母さん)



授与式では子供たちから手作りのお礼の品々を受け取ることが多々ありました。中学生の男の子が自分で編んだ果物籠を持ってきてくれたり、いろいろな色に染めたティッシュを紙に張り付けて作った絵を持ってきてくれた女の子もいました。どれも作るのに時間が掛かるものだと思うのでドナーの方々への感謝の気持ちを形に表してくれたんだなあ、と感心しました。また、授与式の際に英語でスピーチをしてくれたり、ギターを弾きながら歌を歌ってくれる子もいました。どの子も緊張しながらも一生懸命にもてなしてくれました。



※お礼に頂いた手作りの品々



※授与式にて（お礼にギターで弾き語りをしてくださいました）

帰国して数日経った 7 月 2 日にタイのタムルアン洞窟で行方不明だった少年達発見のニュースが流れました。8 日から順次救出され、10 日に最後の 5 人が生還を果たし奇跡的な出来事だと世界的なニュースになりました。後日、救助活動中に亡くなった海軍特殊部隊の方が居る事実を少年たちに伝えたところ皆が涙を流し黙祷をささげ、短期の出家をすることで追悼と感謝の気持ちを表したそうです。発見されるまでは皆で寄り集まり瞑想をして助けを待ったといい、仏教国のタイではお寺やお祈りが生活の中に溶け込んでいて仏教の教えが深く根付いていたようで神様のお導きかもしれません。将来は特殊部隊で働きたいと言った子もいたそうです。

今回の授与式での訪問を振り返って、現地で子供たちや親御さんの顔を見て直接奨学金を手渡すことや道中に教育委員会の先生方と交流させて頂ける時間を過ごしたことで子供たちの成長やタイの発展を感じましたし、その喜びや過ごした時間の中での様々な学びが私の人生を豊かにしてくれているなぁと感じました。このような機会を与えて下さり、また子供たちの将来のために継続的に支援して下さい有難うございます。これからも変わらぬご支援の程よろしくお願い申し上げます。

報 告 2

～2017 年おおしま手作り絵本コンクール続報～



2018 年 6 月 29 日、2017 年度の射水市おおしま手作り絵本コンクールで北陸中日新聞奨励賞を受賞したムクダハーン県の学生 3 人へ賞状と記念品を手渡してきました。代表のカンスポーさんは別の県の高校へ進学したため欠席でしたが、共同制作者の 2 名がムクダハーン県の副教育長から賞状を手渡され、とても嬉しそうでした。キャンヘルプタイランドからも副賞として文房具を贈呈しました。

報 告 3

～2018年度カンボジア小学校トイレ支援経過報告～

6月26日、2018年度のカンボジアトイレ支援プログラムとして、バタンバン州サンパオルン郡のオコキ小学校へトイレ建設資金 3,000 ドルの授与式を行ってきました。今回のトイレ支援ではワークキャンプを行いませんでしたが、授与式ツアーとして3名の方に同行して頂くことができました。

カンボジアツアーに参加して 久保卓巳・とし子、近藤文子

6月25日 午後5時10分、定刻通りにカンボジア シェムリアップ空港に着きました。先に到着していたキャンの坂さんの出迎えを受けて、送迎バスでホテルに到着しました。シェムリアップは街全体がアジアの発展途上国特有の、気候だけではなく熱気に溢れています。人々はエネルギーで友好的で、何より食事が美味しいことは嬉しい驚きでした。こうして、好印象でカンボジアのツアーが始まったのです。

翌26日は、朝7時にバタンバン州サンパオルンに向けて車で出発しました。

アニキと呼んでくれと言うガイドさんが加わり私たちは5人。日本なら定員オーバーになるはずですが、当たり前のように客五人を押し込んだタクシーは出発しました。

すぐに街はずれになり、広大な畑が広がる赤土の道をしばらく走ると、次の小さい町を通りま



す。そしてまた、右も左も地平線まで続く畑を見ながらひた走るということを繰り返して3時間あまりで目的地サンパオルンに着きました。

教育委員会のアンさんと待ち合わせ、トラウチュー学校に視察に行きましたが、ここは昨年、キャンが協力してトイレを作ったところです。そのトイレは鍵がかけてあるので私たちが使う時にはわざわざ鍵を開けてもらわなくてはなりません。子供たちが普段、どのように使っているのか気になりましたが、大切に扱っているということの現れかとも思います。

次に向かったのは、今回のカンボジア訪問第一の目的のトイレ建設資金の授与を行うオコキ小学校です。

田舎のどろんこ道を走って着いたのは、畑の中にポツンと建つ小さな学校です。

ここでは、校舎不足と先生不足のため二部制の授業を行っているため、午前の子供たちは帰った後で、先生方とわずかに子供が二人出迎えてくれました。

カンボジアの人達は小柄な上に、三人の女の先生は若く、まだ子供のような可愛らしさで、さらに驚いたのは、赤ちゃん連れで働いている先生がいることでした。ハンモックですやすや眠る赤ちゃんを二人の小学生の女の子が見守っているのは微笑ましかったです。

日本では働くお母さんは保育所がなくて苦勞をしています、ここでの働き方と子育ては自由で楽しそうだと思います。これは日本の政府が推進しようとしている「働き方改革」のヒントになら

ないでしょうか。おそらくずっと昔の日本もこんなふうだったかもしれません。前進するばかりでなく立ち止まること、戻ることもあっていいのではないかと、発展途上国に行くと、日本の前のめりの発展に疑問を抱くことがあります。

ここで簡単なトイレ建設資金の授与式を行って、少しずつ登校してくる第二部の子供たちともほんの少し交流して、穏やかな空気と日焼けした健康な笑顔に後ろ髪を引かれる思いで学校をあとにしました。

次の訪問先は、昨年3月にトイレ建設プログラムでキャンが支援をしたタサダ小学校です。ここでもトイレには鍵がかかっている、どのように有効活用しているのか疑問は残りました。水や使用方法など問題があるのかもしれませんが、近いうちに子供たちが快適に使えるようになると思います。

この小学校はしっかりとした大きい建物で、たくさんの先生たちが総出で出迎えてくれ、短い時間でしたが大勢の子供たちと話したり写真を撮ったりできました。

車で一時間弱で移動できる範囲でも、学校の環境はずいぶん違います。カンボジアの子供たちが等しく十分な教育を受けて社会人になれる日が早く来るようお願いながら長い道のりをシェムリアップに戻りました。

27日早朝に坂さんはラオス経由でタイに移動し、私たちはアニキのガイドでアンコールワット観光をしました。

28日はやはり、アニキのガイドでカンボジアでは一番大きい湖のクルーズに行き、貧しくとも逞しく暮らす水上生活者の社会を船上から眺めました。

世界中から観光客が集まるアンコールワットなどで観光関連の仕事ができることは、カンボジアの人にとっては憧れかもしれません。ガイドも、お土産屋の店員も、ホテルの従業員も英語ができることが最低条件です。多くの子供たちの将来の夢である学校の先生になるのにも、やはり、教育は大切です。今回会った子供たちのはじける笑顔を思い出しながら、これからのキャンの活動に期待を寄せずにはられません。

坂さんが私たちのわがままなリクエストに応じて下さり、大満足のカンボジア滞在でした。これからのカンボジア支援のパイプが太くなり、輪が広がることを祈っています。



お知らせ

～ワールド・コラボ・フェス2018～

2018年11月10日(土)、11日(日)に名古屋市栄のオアシス21でワールド・コラボ・フェス2018が開催されます。キャンハルプタイランドも例年通り2日間ブース出店を致しますので、是非お越しください。キーホルダーなどのタイ雑貨の販売もあります。



お知らせ

～ご寄付のお願い～

各プログラムへのご寄付を広く募集します。ご協力くださる方は、同封の振込用紙もしくは郵便局に備え付けの振込用紙を使用いただき、必要事項及びご寄付を希望のプログラム名（寄付金の使途）を記入してお振込み下さい。尚、寄付金の使途をご指定にならない場合は、こちらで振り分けさせていただきますのであらかじめご了承ください。

奨学金プログラム	1 □	10,000 円
ランチプログラム	1 □	5,000 円
建設プログラム	1 □	5,000 円
図書支援プログラム	1 □	1,000 円
山岳民族支援プログラム	1 □	10,000 円
カンボジア支援プログラム	1 □	5,000 円
運 営 基 金	1 □	1,000 円
会 費 ※	1 年	3,000 円

※ 会員制度とは…

会員になっていただいた方には、年 4 回「ネットワーク通信」をお送りし、キャンヘルプタイランドの活動やイベント情報、タイにまつわるいろいろな情報をお伝えしていきます。年 1 回、会費 3,000 円をお振込みください。

寄付金・会費のお振込みは…

<郵便振替口座>

口座名：NPO キャンヘルプタイランド
番 号：00280-2-43793

運営委員会

(2018 年 5 月～8 月)

活動	月日	場所	内容
運営委員会	5 月	事務所	奨学金授与式計画
運営委員会	6 月	事務所	カンボジアトイレ支援 奨学金授与式
運営委員会	7 月	事務所	翻訳会準備

運営委員募集中！

通常は毎月第 4 土曜日に事務所に集まり、会の運営について話し合っています。見学でも結構ですので是非事務所へ遊びに来てください。

次回の運営委員会は **開催日未定のため参加希望の方は事務局までメールでお問い合わせください。**

編集後記

6 月末のカンボジアトイレ支援と奨学金授与式に続き、お盆明けの 8 月後半にもタイへ行ってきました。今年の 2 月後半に行われた「カサロンの家」での牛小屋建設ワークキャンプも合わせると、本年度はすでに 3 回もタイへ渡航したことになります。バンコク経由でカンボジアへも入国して、またタイへ戻ったりしていますので、パスポートに押されたタイの入国スタンプは 5 つになりました。数年前から、陸路でタイへビザなしで入国する場合は年 2 回までという制限が設けられましたので、もう今年中は、カンボジアやラオスから陸路でタイへ戻れなくなってしまいました。空路なら問題なしです。

<キャンヘルプタイランドネットワーク通信 Vol.82>

発行 NPO キャンヘルプタイランド
 発行人 西川 弘達
 編集人 坂 茂樹
 発行日 2018 年 8 月 20 日
 住 所 〒450-0003
 名古屋市中区名駅南 2-11-43
 NPO ステーション内
 Tel & fax 052-566-5131
 (OPEN : 土曜の 13~16 時頃)

E-mail : office@canhelp.jp
 ホームページ : http://canhelp.jp